

日本と中国における「鬼」のイメージの差異について

— マインドマップ調査の分析 —

佐々木 翔太郎

要 旨

日本の鬼は中国より伝わったとされるが、意味範囲が時代と共に拡大しているため、日本人と中国人では鬼に抱くイメージに差異が生じているのではないかと考えられる。そこで、マインドマップ (mind-map) を用いたアンケートを実施し、日本人と中国人がそれぞれ鬼にどのようなイメージを抱いているか調査した。調査の結果、日本人と中国人の間に共通するイメージはあるものの、鬼の容姿や性質などのイメージに関して顕著な差異があることが明らかになった。そのため、日本と中国では「鬼」の表現のされ方も異なっていると考えられる。中国語母語話者は日本へ留学して来た際、特に日本語の「鬼」を用いた比喻表現に違和感を持つことが多いと思われる。想像上の存在である鬼に対する主観の差異が「鬼」の解釈にも差異を生じさせているのであり、日本の「鬼」に対する中国語母語話者の誤解を防ぐためにも、「鬼」の意義差を明確にする必要がある。

【キーワード】 鬼、マインドマップ、イメージ、強意的用法

1. はじめに

鬼といえば、日本人ならどのような姿をイメージするだろうか。角が生えていて筋肉質な体をしていて、虎柄模様のパンツを履き、金棒を持っている姿が容易に想像できるであろう。日本の鬼は昔話や年中行事において、人間を襲う恐ろしい生き物とされたり、逆に人間に優しく親しみの持てる生き物とされたり、あるいは人間に退治される運命にある悪役にされたりなど、多面性を持った存在であると考えられる。小学館 (2000-2002) 『日本国語大辞典』第二版 (以下『日国』) の「鬼」の項目には非常に多くの意味記述がされている。中には「(比喩的に用いて) 鬼のような性質を持っている人」という記述もあり、「鬼」が比喻表現に使用されていることもうかがえる。

鬼の存在は中国より伝わったとされているが、『日国』の「鬼」の意味の出典を見ると、ずいぶんと時間差が生じている。主に姿形についての記述はそれぞれ8~10世紀頃の出典であるが、主に比喩的に用いて特定の人を指示している意味は15世紀以降の出典となっている。このことから、日本の「鬼」は時代と共に語の意味範囲を拡大させてきたと考えられ、中国の「鬼」が持つ意味と比較すると両者には差が生じていると思

われる。したがって、日本語母語話者と中国語母語話者が「鬼」に抱くイメージにも差があるのではないだろうか。

2. 研究の目的と意義

日本の「鬼」はその意味を長い年月をかけて拡大させてきたと考えられる。そのため、中国語母語話者が日本へ留学して来た際、周囲の日本人が使用する「鬼」に関する表現に疑問を抱くことがあると思われる。日本と中国における「鬼」のイメージの差異を明らかにすることは、今後日本へ留学してくる中国語母語話者にとって、日本語の「鬼」に関する表現への誤解を避けるための一助となるであろう。このように、両国にまたがって使用のある語の意義差や価値観の差を明確にすることは、第二言語習得におけるつまづきを解消する糸口になると言えよう。

3. 先行研究

馬場（1971）は、平安時代や中世に見られる鬼の説話から、鬼の内面と当時の世相との関連を述べている。また、女の鬼の成立とその存在価値についても言及している。

早瀬（1990）は、「鬼」の比喻表現を題材に「鬼」の解釈について論じている。空想上の存在である鬼に言語的解釈を与えるのは、人間の主観の反映である情緒的内包によるとしている。

小松（2006）は、現代の日本人が思い描く「鬼」の意味とイメージについて、「人間」との対比を行いながら述べている。また、「鬼」は記号として機能し、「鬼」というラベルを他の語へ貼り付けて「鬼」が持つ意味を付加させる働きがあるとしている。

4. 研究方法

本稿ではマインドマップを利用し研究を行う。マインドマップとは、1970年代初めにトニー・ブザン（1993=1996）が提唱した、人間の意味記憶を助けるのに大変効果的な記述法である。中心概念から連想する意味を次々に枝を伸ばしながら記述できるマインドマップは、現代人が「鬼」に抱く情緒的内包や、「鬼」のイメージや意味を探るのに適していると考えられる。本稿では、このようなマインドマップの有用性に着眼し、「鬼」を中心概念に置いてどのような語が挙げられていくかを調査し、結果を数値化して分析を行う。

5. マインドマップ調査

調査にあたり、マインドマップと文章完成法を用いたアンケートを作成した（別添

資料参照)。本稿では設問1のマインドマップ調査の分析を行う。中国人向けのアンケートでは質問文を中国語に変え、母語のイメージで回答しやすいように配慮した。

マインドマップ出現語の集計にあたっては、表記や言い回しは異なるが、意味として類似している回答は便宜上コード化することとした。以下はその一例である。

(例)「恐(怖)い」「恐(怖)ろしい」「恐怖」など	→ 「恐い」でコード化
「昔話」「童話」「民話」など	→ 「昔話」でコード化
「赤鬼」「赤い」「顔が赤い」など	→ 「赤鬼」でコード化

また、分析にあたり、日本の鬼を「鬼」、中国の鬼を〈鬼〉、両者の鬼を指す場合は〔鬼〕とし、表記を区別する。

実施期間および有効回答者数は次の通りである。年齢、性別、職業、出身地の欄がいずれか1つでも無記入であった場合は無効回答とした。

- ・実施期間 2008年6月2日～8月29日
 - ・有効回答者数 日本人：323名 中国人：55名
- 年齢、性別、職業、出身地の内訳を次に国別に示す。

表1 年齢別内訳(単位：人)

国籍	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
日本	99	77	33	54	40	13	6	1	323
中国	1	50	2	0	1	0	0	1	55

表2 性別内訳(単位：人)

国籍	男	女	計
日本	110	213	323
中国	25	30	55

表3 職業別内訳(単位：人)

国籍	中学生	高校生	大学生	社会人(有職)	社会人(無職)	その他	計
日本	6	14	140	129	23	11	323
中国	0	0	44	8	3	0	55

・出身地一覧(括弧内は人数)

〔日本〕

山口県(120)、広島県(46)、福岡県・大分県(各24)、兵庫県・長崎県(各20)、鹿児島県(16)、佐賀県(12)、岡山県(7)、鳥根県(6)、鳥取県(4)、大阪府・愛媛県(各3)、静岡県・京都府・香川県・高知県・熊本県(各2)、北海道・山形県・千葉県・神奈川県・富山県・石川県・愛知県・宮崎県(各1)

〔中国〕

遼寧省(8)、山東省(7)、吉林省・貴州省・台湾(各5)、湖南省・北京市(各4)、河南省・黒龍江省・内蒙古自治区(各3)、江蘇省・湖北省(各2)、河北省・天津市・重慶市・広西壮族自治区(各1)

日本と中国共に大学生を中心にアンケート回収を依頼したため、若年層の回答が多くなった。男女比は日本が約1：2、中国は5：6となっている。

5-1. 日本人対象の集計

日本人対象の調査結果を示す。出現語の延べ語数は4634、異なり語数は1179であった。出現度数の上位30語を表4に示す。

表4 マインドマップ調査 日本人対象 (n=323)

記号	出現語	出現度数	出現率	記号	出現語	出現度数	出現率
A	怖い	222	68.7	P	雷	50	15.5
B	赤鬼	196	60.7	Q	退治	48	14.9
C	金棒	196	60.7	R	鬼嫁	45	13.9
D	角	192	59.4	S	鬼ごっこ	45	13.9
E	桃太郎	190	58.8	T	お面	40	12.4
F	青鬼	129	39.9	U	地獄	38	11.8
G	強い	120	37.2	V	想像上	30	9.3
H	豆まき	113	35.0	W	きびだんご	29	9.0
I	節分	106	32.8	X	怪物	29	9.0
J	虎柄パンツ	102	31.6	Y	もじゃもじゃ頭	28	8.7
K	昔話	101	31.3	Z	鬼瓦	24	7.4
L	悪い	82	25.4	a	人を襲う	24	7.4
M	大きい	80	24.8	b	鬼婆	24	7.4
N	鬼ヶ島	57	17.6	c	一寸法師	23	7.1
O	牙	55	17.0	d	犬	21	6.5

各項目には、便宜上、記号を付した。なお、表中の「出現率」は有効回答者数 (n) に対する出現度数の百分率で算出される。出現率は小数点第2位を四捨五入して第1位までを示している。

表4では上位5語が50%以上の出現率を得ている。これらは、「鬼」についてイメージされやすい事柄であると思われる。特に、「鬼」の性質を指摘した形容詞A「怖い」は出現度数が本調査で最も多く、70%近い出現率を得た。出現した形容詞の中でもA「怖い」はG「強い」(37.2%)やL「悪い」(25.4%)、M「大きい」(24.8%)と比較して出現頻度が高く、出現率に30~40ポイントの差がある。「鬼」といえば、まず「怖い存在だ」という認識が多くの日本人にあるのではないだろうか。マイナスイメージのA「怖い」とは反対にプラスイメージを持つ「優しい」も、表4では示されていないが18件回答があった(出現率5.6%)。心優しい「鬼」が描かれている「ないたあか

おに」^(注1)のような物語の影響が強いと思われるが、A「怖い」と比較すると回答数は非常に少なかった。「実は優しい」という回答もあったが、「実は」の部分からは「鬼」がプラスイメージを持つことが意外性のあることだと感じていることがうかがえる。「鬼」の性格に関してはA「怖い」をはじめとするマイナスイメージが色濃く、一般的であると言える。

A「怖い」に続くのが、容姿を指摘した名詞B「赤鬼」C「金棒」D「角」、昔話のE「桃太郎」である。これらは出現度数がほぼ同数であり、それぞれ60%前後の出現率を得ている。4語全てを記入している回答者が多かったが、「桃太郎」^(注2)の絵本の中でB～Dのような容姿で描かれていて、E「桃太郎」から連想する形で回答していったものと思われる。また、Q「退治」やW「きびだんご」、d「犬」も同様であろう。

小松（2006）は「鬼」の特徴を図像的説明と行動上の性格の二点から次のように指摘している。

〈図像的説明〉

「鬼の姿かたちは、現代の絵本やコミック（E・c）などにたくさん描かれている。そのほとんどは、姿は人間で、顔は醜悪で、肌の色は赤や青（B・F）や黄、黒といった原色、筋骨たくましく、虎の皮の褌（J）を締め、牛などの動物の角に似た角（D）を一つないし二つ、ときにはそれ以上をもち、口の左右からは鋭い牙（O）がはみ出ている。」

〈行動上の性格〉

「鬼の住みかは夜の闇の彼方、人間世界以外のどこかで、節分（I）の夜には必ず人間世界に登場し、人を取って食べ（a）、人間の富を奪い取ったりする。」

（小松、2006 下線および記号は筆者が付した）

枠内の下線部は表4のマインドマップ出現語と関連する事項であり、括弧内の記号とそれぞれ対応している。小松（2006）が「現代人が普通に思い描く鬼の意味とイメージ」とした上記の特徴が、マインドマップ調査によって挙げられたイメージと一致する点を多く持っていると言える。また、C「金棒」N「鬼ヶ島」（E「桃太郎」より）、H「豆まき」（I「節分」より）などのように、間接的な対応の見られる語も多い。

さらに、小松（2006）は、「『人間』という概念を成立させるために、『鬼』という概念がその反対概念として作り出された」とし、その結果、「鬼」の性格が「『怪力・勇猛・無慈悲で、恐ろしい』というふうに集約」されるとしている。「怪力」や「勇猛」は前掲の表4のG「強い」、「恐ろしい」はA「怖い」に対応する。

上位30語の中で、「鬼」が人物の比喩に及んでいるのがR「鬼嫁」とb「鬼婆」で

ある。b「鬼婆」は『日国』に記載があり、「①鬼のような姿をした老女。または老女の姿に身をかえている鬼」「②残酷で無慈悲な老女」と説明されている。「鬼」は「人間」と対立する概念であることを小松（2006）は指摘したが、このように「鬼」の概念を用いて人間を比喻する場合もあり、『日国』では、「鬼」には「(比喩的に用いて)鬼のような性質を持っている人。また、鬼の姿と類似点のある人」という語釈があるとしている。R「鬼嫁」は『日国』に記載が無いが、b「鬼婆」の語形を類推して造語されたと思われる。R「鬼嫁」はb「鬼婆」よりも出現度数が多く、これは、2005年および2007年に放送されたドラマ「鬼嫁日記」などの影響が大きいと思われる。

5-2. 中国人対象の集計

中国人対象の調査結果を示す。出現語の延べ語数は571、異なり語数は272であった。出現度数の上位33語を表5に示す。

表5 マインドマップ調査 中国人対象 (n=55)

記号	出現語	出現度数	出現率	記号	出現語	出現度数	出現率
A	怖い	34	61.8	R	見えない	7	12.7
B	幽霊	29	52.7	S	長い髪	7	12.7
C	夜	15	27.3	T	墓	7	12.7
D	(ホラー) 映画	13	23.6	U	物語	6	10.9
E	女の鬼	12	21.8	V	酒鬼 (=酔っばらい)	6	10.9
F	地獄	12	21.8	W	鬼屋 (=鬼が居る部屋)	5	9.1
G	人	10	18.2	X	神秘的	5	9.1
H	悪い	10	18.2	Y	小鬼	5	9.1
I	死	10	18.2	Z	白い服	5	9.1
J	魂	9	16.4	a	牙	4	7.3
K	人を襲う	9	16.4	b	さまよう	4	7.3
L	存在しない	8	14.5	c	生きる	4	7.3
M	死人	8	14.5	d	貞子	4	7.3
N	血	8	14.5	e	鬼子	4	7.3
O	神	8	14.5	f	閻魔	4	7.3
P	醜い	8	14.5	g	迷信	4	7.3
Q	悪魔	7	12.7				

中国人の調査においても、形容詞A「怖い」が最も多い出現度数となり、60%を超える出現率を得た。出現した形容詞を見ると、A「怖い」の他には、H「悪い」(18.2%)、P「醜い」(14.5%)があるが、出現率はA「怖い」に比べて低く、40ポイント以上

の差がある。

A「怖い」に次いで高い出現率となったのは名詞B「幽霊」(52.7%)である。C「夜」、D「(ホラー)映画」、F「地獄」、I「死」、J「魂」、M「死人」などの名詞はB「幽霊」に関連する語である。これらの語より、中国人のイメージする〈鬼〉は異界の存在(幽霊)としてのイメージが強いと考えられる。F「地獄」は日本人対象の調査でも回答が得られたが、中国人の出現率(21.8%)の方が日本人の出現率(11.8%)よりも10ポイント高く、よりイメージが強いと考えられる。C「夜」や前述の形容詞P「醜い」は小松(2006)の指摘する「鬼」の特徴にあてはまる事項であるが、日本人対象の調査ではC「夜」は回答が無く、P「醜い」も出現度数2(出現率0.6%)と回答が極めて少なかった。日本人の結果に比べ、全体的に暗いイメージの強い中国人の回答で、C「夜」やP「醜い」がよりイメージされやすかったと思われる。

E「女の鬼」という回答は、日本人がそれほど意識していないと思われる「鬼」の性別に関して、中国人の意識が高い事を示す結果となった。S「長い髪」、Z「白い服」のような〈鬼〉の容姿を指摘した回答があったが、中国人留学生に「鬼はどんな姿をしているか」と尋ねると、「髪が長い」「白い服」「女の人」の三点を答えていた。これらのイメージを反映させたような姿をしているのが日本映画「リング」に登場するd「貞子」である。中国では〈鬼〉の映画が作られているようだが、マインドマップの回答にあたり、日本人にも分かるようにd「貞子」を記入した回答者がいたと思われる。

L「存在しない」やR「見えない」、g「迷信」は〈鬼〉の存在そのものについて言及した回答であるが、アンケートの自由記述欄では「世の中に鬼はいないけど、考えすぎたら鬼が出る」や「いないよりは、いると信じた方がいい」など、〈鬼〉が存在するという前提で考えておいた方が身のためだというコメントが多く得られた。中国人は日本人と同様に〈鬼〉が想像上の存在であると考えながらも、〈鬼〉の存在を非常に恐れていると思われる。

V〈酒鬼〉は酔っぱらいや飲んだくれのことである。日本語の「鬼」には、「仕事の鬼」や「スピードの鬼」などのように「～の鬼」という形で前項の語の程度を高めたり、「鬼かわいい」「鬼うまい」などのように、「鬼のように」の後部を省略し、接頭語で用いて「とても・非常に」などの意味で使われ、強意の標識として機能する強意的用法での使用例が見られるが、V〈酒鬼〉の〈鬼〉はその類ではないだろうか。〈鬼〉にも強意的用法の性質があることをうかがわせる。

e〈鬼子〉は外国人に対する憎悪を込めた呼称である。「日本人」は〈日本鬼子〉、「西洋人」は〈洋鬼子〉と呼ぶ。これらは〈鬼〉が本来持っている残虐さや無慈悲さを比

喩的に表現していると思われる。

5-3. 日本と中国のイメージ比較

日本と中国のマインドマップ調査の結果を集計した表4と表5を参照し、「鬼」のイメージを容姿に関する出現語（以下、「容姿イメージ」）と性質に関する出現語（以下、「性質イメージ」）に分類して比較する。

5-3-1. 容姿イメージの比較

小松（2006）の図像的説明にもあるように、日本の「鬼」は絵本などを通じて多く描かれ、日本人は幼い頃から「鬼」の姿がどのようなものであるかを見てきている。表4においてもB「赤鬼」C「金棒」D「角」をはじめ、「鬼」の容姿を指摘した語の出現率は比較的高く、「鬼」の容姿イメージは高いレベルで共通理解があると思われる。また、「鬼」は男性イメージで、禪（≒表4のJ「虎柄パンツ」）一枚で金棒を持って暴れ回るエネルギー的な存在である。

中国人の回答は全体的に不気味なイメージの語が多く、「鬼」は非常に忌み嫌われた語であると考えられる。また、「鬼」は女性イメージで、死者の魂が幽霊となって現世に現れた女性を「鬼」ととらえているようである。

馬場（1971）は、『平家物語』や『源氏物語』に見られる女性の「鬼」の変身譚を例に、日本における女性と「鬼」とのつながりについて述べている。恋愛への執着や羞恥心、裏切られた事への怒りなどが美しい女性を「鬼」へ変身させるといった筋のストーリーが日本文学にはあるが、日本人集計では「鬼」そのものを女性だと指摘した回答は得られなかった。『日国』は、「鬼」の容姿は「室町時代には、虎柄の禪に筋骨たくましい体、頭の角、といった型がつくられ、お伽草子などを通じて流布されていった」と記している。したがって、室町時代には既に「鬼」は男性イメージが強い語であったと思われる。表4のb「鬼婆」は女性が「鬼」へと変身したものであるが、b「鬼婆」が女性イメージを持つのは「婆」が女性の標識として機能しているためである。表4のR「鬼嫁」も同様である。これらのことから、「鬼」は無標の場合は男性イメージであり、女性の標識を伴う有標の場合には女性イメージを持つことができる語であると言える。

また、日本人は「鬼」を表4のX「怪物」としているのに対し、中国人は「鬼」を表5のB「幽霊」としている。人間の体格を基本としながらも、牙や角を持つ「鬼」は人間離れた容姿や能力を持つ怪物とされ、超人的なイメージを持ち、人間と対立する概念である。一方、「鬼」は死者の魂が人間の姿で具現化したものであり、人間

の概念からかけ離れた存在ではなく、あくまでも人間の性質を残している。表5においてG「人」やM「死人」のように直接人間を指し示す語やS「長い髪」やZ「白い服」のように人間が身に付けていて自然なものが回答として得られていることからそう言えるだろう。

5-3-2. 性質イメージの比較

表4および表5より、性質イメージの形容詞を抽出し、次の表6に示す。

表6 性質イメージの形容詞

日本人	回答率	中国人	回答率
怖い	68.7	怖い	61.8
強い	37.2	悪い	18.2
悪い	25.4	醜い	14.5
大きい	24.8		

日本人と中国人の性質イメージで共通しているのはマイナスイメージの「怖い」と「悪い」である。特に、「怖い」は日本人も中国人も出現率が60%を越えていて、高い割合で「鬼」も〈鬼〉も「怖い」と思われている。

日本人の回答でのみ顕著な出現率を示したのが、プラスイメージの「強い」と「大きい」である。これらの語は場合によっては特に女性にとって悪いイメージととらえられることもあるが、本稿ではプラスイメージとして扱う。日本人は絵本やコミックなどで描かれた「鬼」の姿や振る舞いから、その強さや大きさを感じ取っているものと思われる。日本人が「鬼」から受け取る語感にはマイナスイメージに限定されず、プラスイメージも含まれる。

一方、中国人の回答でのみ顕著な出現率を示したのが「醜い」である。「醜い」は「怖い」や「悪い」と同様、マイナスイメージの語である。女性イメージの強い〈鬼〉よりも、男性イメージが強く人間離れした姿をしている「鬼」の方が「醜い」と考えられそうだが、中国人の方で「醜い」が多く回答される結果となった。

早瀬（1990）は「『鬼』が『怖ろしい』というのは鬼の特性ではなく、鬼について我々の抱く主観的な感情である」と述べている。早瀬（1990）は「鬼」の意味を作り出すのは人間の主観に拠るところが大きいことを指摘しているが、表6で示した形容詞は日本人、中国人それぞれが〔鬼〕に抱く主観的な感情の表れであると言えるだろう。「怖い」と「悪い」は日本人と中国人に共通の主観的な感情であるが、日本人における「強い」と「大きい」、中国人における「醜い」はそれぞれの特徴となる主観的な感情である。この部分が日本と中国における〔鬼〕のイメージに差異を生み出す根幹となっていると思われる。

形容詞以外の語を見ると、日本人と中国人どちらの調査でも回答があったのが「人を襲う」である。また、表4のV「想像上」と表5のL「存在しない」の両者は、〔鬼〕

が意図的に提示した「B. 鬼のように怖い友達」の2つの意味について、どちらの意味だと思えるかを選択するアンケートを実施した。その結果、Aの選択率は57.6%でBの選択率(42.4%)を15ポイント程度上回った。この調査は、「鬼」の本質的なイメージとも言える「怖い」よりも、「鬼」の強意的用法が解釈として受け入れられたことを示している。中国人対象のマインドマップ調査で回答のあった〈酒鬼〉が〈鬼〉の強意的用法の一例である可能性については前述した。しかし、表7のように「鬼」にのみ「強い」や「大きい」といったプラスイメージが得られていることから、〔鬼〕の強意的用法での使用頻度は中国よりも日本の方が高いと考えられる。

〔鬼〕のイメージの差異が原因で、中国語母語話者が日本の「鬼」に関する表現に最も違和感を持つのは、「鬼」を用いた比喻表現であると考えられる。日本と中国で共通している〔鬼〕のイメージで比喻された表現であれば理解できるが、日本にあって中国にない「鬼」のイメージで比喻された場合に理解が難しくなると思われる。その代表例が「鬼」の強意的用法である。日本人対象のアンケートでマインドマップ調査と同時に実施した文章完成法調査では、「鬼のように働く」や「鬼のように勉強する」「鬼のように忙しい」などの回答が得られた。これらは「鬼」が強意的用法で機能している例であり、〈鬼〉にプラスイメージを持たない中国語母語話者が最も理解に苦しむところであると思われる。「～の鬼」や「鬼～」のような表現についても同様である。

日本人以上に〈鬼〉を嫌う中国人の日本語学習者に対して、強意的用法に代表される日本語独特の「鬼」の表現方法を説明する必要があるだろう。早瀬(1990)は「『鬼』の本質規定ではない我々の主観の反映である感情的内包までもこの『鬼』という言葉に託してしまう」と述べている。不確かな存在である故に人間の主観によって意味が付与される部分が大い〔鬼〕において、〔鬼〕に対するイメージに差異のある日本と中国の間で意義差が生じるのは当然のことである。

7. 今後の課題

本稿は、平成20年度日本語教育学会第10回中国地区研究集会での発表資料に加筆・修正したものである。マインドマップ調査の結果に見られる日本と中国の〔鬼〕のイメージの差異について述べた。今後はアンケートの文章完成法調査や自由記述欄の回答を、マインドマップ調査の結果と関連付けながら、〔鬼〕に対するイメージから作られる〔鬼〕を用いた具体的な表現について分析を進めていきたい。

【注】

- 1 「泣いた赤鬼」は浜田廣介が著者の作品であり（初版は1965年、偕成社）本来二重鉤括弧で示すべきであるが、現在複数の出版社から異なるイラストで数多く絵本が出版されていることを考慮し、本稿では鉤括弧で示す。
- 2 「桃太郎」は室町時代成立が有力とされる昔話であるが、作者が不詳であるため、本稿では鉤括弧で表記する。

【参考文献】

- 北原保雄監修（2006）『みんなで国語辞典！ これも、日本語』大修館書店
- 小松和彦（2006）『妖怪文化入門』せりか書房
- 佐々木翔太郎（2008）「友人を表す呼称の多様化について－仮友から鬼ダチまで－」
2007年度山口大学人文学部日本語文化論コース林研究室論文集『現代日本語文化論』第1号 pp.1-57
- 小学館（2000-2002）『日本国語大辞典』第二版
- Tony,Buzan. and Barry, Buzan.（1993）*THE MIND MAP BOOK*. BBC Books（邦訳は、トニー・ブザン著、田中孝顕訳（1996）『これが驚異のマインド・マップ放射思考だ!!』騎虎書房）
- 馬場あき子（1971）『鬼の研究』三一書房
- 早瀬尚子（1990）「『鬼』はどこから来たか」『*Osaka Literary Review No.XXIX*』 pp.1-9

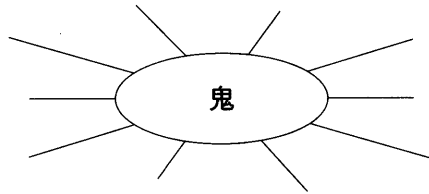
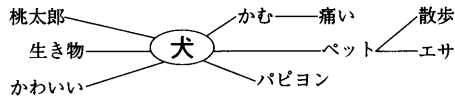


別添資料

ことばに関するイメージ調査

① 「鬼」について思いつく意味やことがらを例も参考にして自由にお書きください。

(例) 「犬」



② 以下の書き出しに続けて自由に文を完成させてください。

- (1) 鬼のような _____
鬼のような _____
鬼のような _____
- (2) 鬼のように _____
鬼のように _____
鬼のように _____

③ 「鬼」や「鬼のように(な)」に関して、何かご意見があればお書きください。

④ 以下の (1)～(3) の該当する項目に○を付け、(4) は括弧内にご記入願います。

- (1) 年齢 [10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上]
- (2) 性別 [男・女]
- (3) 職業 [中学生・高校生・大学生・社会人 (有職)・社会人 (無職)・その他 ()]
- (4) 出身 [] 都道府県

ご協力ありがとうございました 山口大学大学院人文科学研究科 佐々木 翔太郎